

## 海外における筋電電動義手の現状と問題点（抄）

## 文献調査研究

慶應大学月が瀬リハビリテーションセンター  
岡島康友  
田中尚文

## ■ おわりに

電動義手の使用現状を見る限り、適応決定は慎重に行う必要がある。まず切断者の能力低下の観点に立って、「できること」と「できないこと」を明確にしなければならない。そして、「できないこと」に対しての切断者のニーズをチェックする。ニーズには複雑な要素が絡み、たとえ、使用頻度が少ないと思われても、それが切断者にとって重要なことならニーズは高くなる。切断前は頻繁にやっていたことも切断後はやらずに済ませてしまうかもしれない。その場合のニーズは先細る。一側切断では健側あるいは口を使うことで、ほとんどの場合、ADLは自立する。したがって、IADL、職場での手作業、趣味といった内容でのニーズをチェックしなければならない。

※ 平成11年度災害科学に関する委託研究「筋電電動義肢に関する研究」より抜粋